

## 平成30年度第1回総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成30年8月29日(水) 午後3時30分 開会
- 2 場 所 東松島市役所 本庁舎3階 301会議室
- 3 出席者 東松島市長 渥美 巖  
東松島市教育委員会 教育長 工藤 昌明  
東松島市教育委員会 委員 木村 和彦  
東松島市教育委員会 委員 福田 ゆかり  
東松島市教育委員会 委員 鹿野 あい子  
東松島市教育委員会 委員 松岡 勝久

(事務局)

東松島市総務部長	小林 勇
東松島市総務部総務課長	小山 隆
東松島市教育委員会教育次長	奥田 孝信
東松島市教育委員会教育総務課長	勝又 啓普
東松島市教育委員会学校教育課長	熱海 良彦
東松島市教育委員会生涯学習課長	柏木 淳一
東松島市教育委員会学校教育課指導主事	黒沼 俊郎
東松島市教育委員会教育総務課教育総務班長	奥田 和朗

- 4 傍聴者 9名

### 5 開会

総務課長(司会) それでは定刻になりましたので、ただいまから平成30年度第1回東松島市総合教育会議を開会いたします。開会にあたりまして渥美市長よりご挨拶を申し上げます。

市長 今年記録的な夏の暑さがあり、今エアコン等の問題が全国的に話題になっております。当市におきましても、今年度単独で大曲小学校にはエアコンを付けまして、2学期からは対応できる体制になりました。県全体では、4%から5%のエアコンの普及率ですが、東松島市は大曲を入れると75%位になっております。今後、残すは赤井南小学校ですが、来年から大規模改修が入りますので、それに併せて仮設の校舎も含めてエアコンが入ります。後は赤井小学校と大塩小学校も、やはり同じ市内の学校ですので、私としては出来る限り来年中に単独でも入れることができないかと財政の

方と協議したいと思っております。

そういう中で、昨年からは2回総合教育会議に入らせていただきまして、昨年度は最初に学力向上対策をしたいと、そして、いろいろな議論はやりつくしており、学校サイドでも学力を上げる対策をそれぞれ行っていますが、なかなか具体的にその成果が出ていないとなると、やはりもう一步踏み込んだ学力向上対策が必要ではないかということで、目に見える対策として、夏休みを4、5日短縮する事はいかがでしょうかと去年皆さんにお伺いして、そういう方向で今年の夏休みから子供たちについては、従来8月25日までの夏休みを21日までというのが基本のルールとして、4日間短縮した経緯がございます。

もうひとつは学力向上対策としての授業時間の確保のひとつとしては、防災訓練をしていた日を、2時間程度訓練して1日が終わってございましたので、通常の学校の避難訓練なり防災訓練の中で行ってもらい、授業日数を確保するための1日を有効に活用した方がいいのではないかと、進めさせていただきました。

おかげ様でそういう方向性を打ち出しまして、夏休みを短くしただけで、何も対策を取らないわけにはいきせんので、教育環境整備の観点からエアコンを設置した状況を大曲小学校を見に行っただけですが、一学期の最後と比べると子供達が全然違う環境だということで、非常に喜んでいた事が印象的でした。できるだけそういう環境を市内全域の学校に普及していきたいと思っております。

学校問題では、常に出てくるのが、学力と不登校といじめの問題が必ず出てきます。不登校については、それほど大きな問題にはなっていませんが、全国的にはいじめ問題が必ずといっていいほど出てきております。いじめというのは、ずっとどこかである問題で、小さいうちに芽を摘むことが大事だと思いますので、やはりいじめ対策は大事にしてほしいと思っております。

それから、教育委員会が直接ではありませんが、私の施策としての話題としては、私立高校の誘致問題を出しております。議会等にもそれぞれ請願等が出てきておりまして、9月定例会ではそれらの請願の処理について、議会の方でおそらく進めると思いますが、動向等を見ながら私達もぜひ誘致の方向で進めていきたいと思っております。これは9月末までに県の方に私立高等学校が申請をするという事になっております。それらを含めて私達はその学校は、少子高齢化で人口減少が続く我が町にとって、やはり全寮制の私立高等学校ということで、宮城県にはない高等学校ですので、ぜひ人口減少対策にも繋がればいいと思っております。

あとは、鳴瀬桜華小学校につきましては、造成工事が始まっている状況で、造成工事が終わるとすぐ建築工事に入っていく段階で、これは計画どおり進めていきたいと思っております。将来的に子供の数というのはその町の発展のバロメーターになっていくわけですが、できるだけ私としては子供達の数を多くしていくために、例えば幼児教育含めて子育て支援の観点から、今年の4月1日からは夜8時までの民間の保育園を誘

致しておりますし、5月からは企業型の保育園ということで、朝7時から夜7時半までの企業連携型の保育園を開園し、それが結果的に子育て支援に大きく寄与していると思っております。今後も新たに私立の保育園についても、もう1か所位検討していただいております。

ぜひとも、やはり東松島市の子供を、なんとしても優秀な、そして賢い健全な子供達を育てていきたいと思っておりますので、委員の皆様のご忌憚のない今日の会議をよろしくお願ひしたいと思ひます。私からは以上でございます。

総務課長（司会） それでは、早速議題に入らせていただきます。総合教育運営要綱第4条第2項の規定により、市長に議長をお願ひして進めてまいります。 それでは、市長よろしくお願ひします。

市長（議長） それでは、要綱の定めるところによりまして、議長を努めさせていただきます。早速議題に入りたいと思ひます。お手元に配布の議題に沿っていきたくと思ひます。はじめに議題（1）学力向上対策についてでございます。学校教育課長から説明をいただいたうえで、議論を進めていきたくと思ひますので、よろしくお願ひします。

## 6 議 事

### <（1）学力向上対策について 学校教育課長より説明>

市長 はい、ありがとうございます。ただいまの学校教育課長の説明に対しまして委員の皆さんから何か質問はございませんか。

木村委員 学力の点数について全国や県との比較とのことですが、平均点の内容について教えてください。全体的に平均的な点数なのか、それとも良い点数を取っている子と、点数を取っていない子が多くて今の点数なのか内容を教えてください。

それから、宮城県のとの比較ですが、この中に仙台市が含まれているのかどうか教えてください。

学校教育課長 宮城県の正答率の中に仙台市が含まれている数字です。ただ、県教委では仙台市を除いた数値も公表しております。それでは前者の質問ですが、これについては、本日の資料には入れておりませんが、各問題における正答率の分布グラフがございまして、本市は宮城県や全国に比べて、いわゆる上位層の割合が低く、下位層の割合が高くなっております。また、中位層の割合も多く、このあたりが各問題との結果で正答率からいって、共通の課題でありますので、やはり下位層には丁寧な個別指

導によって引き上げる、あるいは中位層や上位層には発展問題により取り組ませてさらに力を向上させる。授業においても個に応じた指導が必要で、先程申し上げたとおり、放課後の補充学習の時間で担任だけではなく全教員が一体となって、マンツーマンとはいきませんが、個に応じた指導を行って全体の底上げを図って参りたいと考えております。

松岡委員 学力が非常に低下しているという長年変わらない状況ですが、やはり原因の特定がもっと必要ではないかと思いました。震災当時4歳の、今6年生の児童の学力低下が原因がとなっているということですが、これは他の被災地、例えば気仙沼市や岩沼市や名取市の公表している他の市の動向はどうか、把握してらっしゃるのか教えてくださいたいと思います。

学校教育課長 結論からいいますと、他市町の正答率は把握しておりません。

工藤教育長 課長の答弁のとおりですが、この事に気づき始めたのが今年度に入ってからになります。松岡委員のご指摘のとおり同じような被災地で、どのような取り組みを行っているのか調査したいと思っていますし、被災地共有の問題だとすれば、本市だけの問題ではないと思います。実は県教委でも国でも把握している問題ですので、今後広めていきたいと思っています。

市長 今の問題で、実は私の方も吉野復興大臣とお会いした際に、やはり私も被災した子供達は仮設に居ようが避難所に居ようが勉強する場所もなく、それが3年も4年も続いて、勉強するという習慣がだいぶ少なくなっているの、それを補うためになんとか対策を復興サイドでしてほしいということで、大臣は課題については来年も含めて、そして復興事業が平成32年度で終わりますが、それ以降もソフト的な事業として子供達への課題ということで吉野復興大臣は考えていきたいと力強く私に答弁いただいておりますので、付け加えておきます。

松岡委員 東松島市全体の成績が載っていますが、小学校別学年別、中学校もそうですがどこが低いのか分かりやすい資料をいただくと、もう少し分析できるのかと思いますので、ぜひ次回以降ご提示いただければ、もっと原因究明に繋がると思います。

工藤教育長 実は学校別の公表はしないことになっております。それは、その数字だけで学校のいわゆる違いと言いますか、それよりも個々の子供達のデータがありますので、その子供一人一人がどこが落ちていて、どういう対策をとったら良いのかという事を進めるために国としても学校別の公表については慎重にという方針ですので、それは

出さないようにしようと思っておりますが、当然各学校はデータは持っていますし、各学校は国や県とのデータと比較できますから、自分達の学校の状況を踏まえて取り組ませていこうと思っておりますので、その学校別の公表につきましては慎重にということで、ご勘弁いただきたいと思えます。

市長 教育長、今松岡議員が言っているのはどの学校が良いとか悪いとかではなくても、良い地域の学校は、例えば東地区や西地区位はあってもいいのではないですか。

松岡委員 言い方が悪かったようですが、皆さんに公表ではなく教育委員だけでも公表できないでしょうか。

教育長 やはり環境と子供の現状については、先程の震災の状況も含めて教育委員の中での共有については検討させていただきたいと思えます。

木村委員 先程の資料の宮城県の中に仙台市が含まれているのか、という質問をしたのは私は教科書の選定委員をさせていただいておりますが、仙台市の教科書を石巻地区の教科書は違うようです。仙台市は聞くところによると、かなりのレベルで点数的にも高いということで、教科書選定も少し考えていけないと思えましたので、先程お話をさせていただきました。

市長 そういうこともあるということで、教育長さん、教科書選定は教育委員会の大きな仕事にもなりますので、参考にしていただきたいと思えます。では、(1) 学力向上対策についての質疑はよろしいですか。次に(2) 外国語教育について 事務局の説明をお願いします。

#### < (2) 外国語教育について学校教育課長より説明 >

市長 はい、ありがとうございます。ただいまの説明に対しまして委員の皆さんから何か質問はございませんか。はい、福田委員。

福田委員 質問は2点ありますが、小学校の1、2年生に年に5回程度ALT等の外国語活動を位置付けている学校もあるということですが、この点についてはALTの先生方の授業に対する内容、学校によっておそらく時間等は決まっていると思えますが、自由に選定できるのか。もう一つは今後の小学校の教員の採用については、英語も必須になってくる動きはあるのでしょうか。

学校教育課長 ここでは、ある学校の例として1、2年生に年5回程度のALT等の活動ですが、ALTの訪問する日は決まっております、もちろん3、4年生5、6年生が優先されるわけですが、その中で空き時間があつたならば、低学年の指導にも行けますので、そういった工夫をしている学校もあるということでした。中身については、英語に慣れ親しむ、楽しい活動を行っているという報告を受けております。それから、英語の必修については今年度から移行期として3、4年生の活動が入って、平成32年度からは年間35時間ということで増えますが、さらに1、2年生にまでなるかは現状では把握していないところですが、ただ、流れとしては英語重視と捉えております。

市長 はい、福田委員よろしいですか。その他の質問はありませんか。では、工藤教育長どうぞ。

教育長 デンマークに2回程行かせていただきまして、デンマークで先生と会話する機会があり、とは言っても私は全くできないですが、日本の英語教育の失敗はという話になりました。日本人は英語を上手に話せない人が多く、米軍の政策のせいなのかと質問されて大変驚きました。実はデンマーク人は結構英語で話します。デンマークは日常的に英語が必要な国です。オランダやドイツからいろいろな方が入ってきて、英語でいろんな仕事をしています。日本はその必要性がないですから、日本人は英語が話せなくても、日本で生きていけるという話をしましたが、今後おそらく外国との繋がりがもっともって増えてきて、英語で話したり聞いたり、仕事ができるような人材は求められると思います。そういう意味では、まさに英語教育をこれからもっと重視していかなければならないと思っておりますが、2020年のオリンピック、パラリンピックは良いきっかけだと思っておりますので、これをひとつのバネにして、子供達の意識も高めていきたいと思っております。

市長 はい、他にありませんか。はい、鹿野さんどうぞ。

鹿野委員 各小中学校からの英語教育の取り組みを見ますと、子供達が低学年から、非常に興味を持って楽しんで外国語教育に触れているようでした。ただし、それは年代が増すに連れて、いろいろなことが情報として入ってくるのか、やや苦手意識を持つ傾向が見られてくるようですので、ぜひ先生方にはその辺を考慮して、いつまでも楽しい英語教育であるように取り組んでいただきたいと思います。また、それには専門性を兼ねた教員の配置や、英語科の免許を持った先生も必要で、今のところ小学校に2名入っているようですし、また、強力なボランティアさんもお願ひして、どんどん英語活動を強めていってほしいと思っております。そして、東松島市ではチームティーチング方式を取っておりますので、担任とALTと一緒にコミュニケーションを取り

ながら授業を進めるという方式ですので、先生方は大変なところではありますが、そういう時間を作れるように、また外でも先生方が時間を有効に使えるような体制づくりをしてもらえれば、もっと英語教育が活発化するのではないかと考えておりますので、よろしく願いいたします。

学校教育課長 私も同感する部分が多くございます。貴重なご意見ありがとうございます。なお、情報としてですが、今鹿野委員さんがお話されていたように、英語免許を持っている方は小学校に2名配置しておりますし、正確なところでは今年度大曲小学校に新規採用された教員は、実は英語枠という枠の中での採用で、さらに英語を持っている教員もおります。ただ、新任1年目ということで、最初から英語選科ということではなくて、今年度は学級担任という形です。以上です。

市長 今の問題ですが、他の大塩や赤井などはどのようになっていますか。専門の方がいるのか、まったくいないのか。それとも、中学校の方から ALT が回っているのか、どうでしょうか。

学校教育課長 結論から言いますと、英語の免許を持っている教員は小学校の中では、私が把握しているのは3名で、ほとんどの教員は英語の免許を持っておりません。ただ、これまでも外国語活動というのは5、6年生で行われておりますので、校内での研修等、あるいは外部研修に参加するなど、各教員が英語の指導力をアップさせる努力をしております。以上です。

市長 過去には大曲小学校や浜市小学校が、英語の強化指定校に当時の町か市が指定したような覚えがありますが、教育長分かりますか。

教育長 当初、大曲小や浜市小は大変英語活動が活発で、英語ルームを作ったり、ずいぶん先生方の指導力も上がりました。その当時の英語を担当した先生も、現在も市内に残っているかは分かりませんが、その後ずっと貢献していただいております。その時の財産はまだ残っておりますので、そういうのは活用していきたいと思っております。

市長 今聞いたのは、実は大曲小学校で学芸会の時に英語で劇をしていて、とても素晴らしかった記憶があります。そういうものも含めて、今後インバウンドで海外からの観光客が東松島に来たときに対応出来ない、逆におもてなしが出来なくなりますので、いろいろな面でこの外国語教育、特に英語に力を入れていくべきだと思っております。よろしく願いします。

それでは(2)の外国語教育については、これで終了とさせていただきます。

それでは、次に（３）その他に入ります。委員の皆さん何かありませんか。

< （３）その他 >

松岡委員 冒頭の市長のお話にもありましたが、今年は非常に猛暑で大変だったと思います。まだエアコンが入っていない学校があるということで、来年度ぜひエアコンを入れていただきたいと教育委員会でも要望させていただきます。来年度以降、入る予定といますか、予算を確保できるのでしょうか。それと、全国的にも問題となっておりますブロック塀の倒壊ですが、東松島市の現状を調査されていると思いますがご説明をお願いします。

市長 では、教育長をお願いします

教育長 エアコンにつきましては、本当に市長さんの前向きなご配慮と、子供たちへの思いやりで大曲小もたいへん喜んでおりましたし、私も報道で知ったレベルですが、来年は赤井小学校、大塩小学校に取り組んでいただけるようで、冒頭の挨拶にもありましたように、ぜひその方向でお願いしたいと思っております。ブロック塀については、担当課長からお願いします。

教育総務課長 それでは、ブロック塀の関係で現状をお話しします。大阪の地震の影響を受けまして、市内でも通学路の部分になりますが調査をしております。この件につきまして、通学路上のブロック塀の設置されている箇所、学校以外の民間の113箇所と確認しました。そして、この内容ですが、現在は全体の集計中ということで、公表前の段階です。傾向としましては、宮城県沖地震や宮城県北部連続地震と大きな地震を2度経験しておりますので、その時にかなり破損した箇所が多かったということで、比較的危険度の高いものは傾向としては少なかったということで確認をしております。また、今後老朽化という点では、同じように時間がたてば経年劣化も危険度も増していきますので、今回老朽化も含めて、その傾向が見られる箇所につきましては地権者や所有者にその情報をお知らせしながら、市の方ではこちらのブロック塀の修繕撤去、改築等の補助制度もございますので、そうしたご案内もしながら、子供たちのために、そしてお互いにそのリスクを回避するためということで、ご理解をいただきながら安全の確保に努めてまいりたいと思っております。

市長 ありがとうございます。それでは、委員の皆さん何かございませんか。

鹿野委員 8月9日の河北新報の記事を読みましたが、住みよさランキング2018の快



適度で東松島市が2年連続1位という記事を見て、とても嬉しく思いました。今後もこのように生活上良い面で紙面を飾れるようになればと思いました。それで、市長のコメントですが、子育て支援に力を入れたまちづくりを進めるとありましたが、具体的にどのような子育て支援に力を入れようとお考えなのかと、現在未来中学校が生徒がいなくなり、空き地の雑草が立っている状態で虚しい状況になっておりますので、その跡地の使用などは現在協議をして準備を進めている状況だと思っておりますが、もう少し詳しく教えていただければと思います。

市長 子育て支援ですが、やはり働き方改革等も含めて、どうしても女性の方々が第一線で働けるような環境づくりが大事だと思います。私としては最初に、保育環境をしっかりと整備していこうと思ひ、保育所や幼稚園での待機児童をなくしていけるような対策を講じております。先程言ったように今年の4月1日からは、夜8時までのウェルネス保育園と5月には企業連携保育、事業所と一体となって保育をしていく、これは内閣府からの支援がある事業ですが、朝7時半から夜7時半までの、ひかり保育園ということで、こちらはグリーンタウンに開設しております。

近々もう1件民間の保育園を現在公募しており、これはおそらく平成32年の4月頃には、また新たな民間保育園が出来るのではないかと、期待しております。

まずは子育て支援対策をしっかりしていきたいと思っております。

あとは先程からでしております、子供たちの学童保育の件です。従来学童保育は、学校から離れた場所で行っていましたが、それは子供達にとっては雨の日などは大変だと思います。赤井小学校は南の方に1キロ近く出てくる状況です。まずは学校の敷地内で学童保育が出来るような体制にしたいと思っております。ここ1、2年ですべて完結すると思っております。そういうものをしていながら、例えばエアコンの設置率においても、宮城県内では第3位くらいですが、おそらく小学校中学校、複数校持っている市町村では東松島市が一番設置率が高いと思っております。基地を抱えている東松島市としても、今後しっかりと対策を取っていかなければならないと思っております。

あとは先程言ったように、その他の学力向上も今のところは成績が落ちていましたが、今後先生方の力を借りながら、やはりいいものにしていきたいと思っております。

あともうひとつ、住みよさというのは、医療や福祉にも絡んでくると思っております。今回の住みよさランキングというのは、もちろん人口が減少していないところも評価されていますし、あとは公園面積の大きさや、住宅の着工戸数、こういうものも高いということが総合的に評価されて1位になっております。引き続きよい評価をいただけるようにしっかりと進めていきたいと思っております。

それから未来中学校の跡地ですが、先程お話ししましたが、このまま使用しなくとも解体しなければならないような状況、そうしますと1校あたり数億円かかると言われております。未来中学校と桜華小学校を解体となると、あの地域というのは合併前の

鳴瀬町の中心地域ですが、もう完全に人がいなくなってしまう状況、子供達が全くいなくなってしまう状況というのをなんとかしたいと思っています。未来中学校を高校の教室に、桜華小学校については高校生の寮として活用していきたいと思っています。当然私としては、解体費程度を学校に補助してもお願いしたいと思っています。もし、それが途中で止めたとなれば解体して返してくださいという協定書を作っておくことによって、市が解体したのと同じように経費は掛かかりますし、ある物をもう少し活用してとなるとハードルは高いですが、今のような形で私立高等学校誘致をしていきたいと思えます。

やはり、宮城県内の私立高等学校の理事長や学長や校長先生などの方達からは、反対の意見が出ている状況です。

今のままでいいわけですから、これは私立高校と公立高校の生徒の案分の仕方等をいろいろしているはずですので、新たな刺激が出てくると反対との事で、もうすでに表明されている状況です。しかし、このような人口減少の時に何か施策を打ち出していないとダメだと、県内の私立高校と競争するのではなく、私は全国の子供を対象に全寮制の学校を誘致しようと思っています。

例えば、進学コースは、たまたまここには防衛庁の施設がありますから、防大一直線の進学コース、防大へ入れる位の学力であれば、だいたいの大学に入れますから、そのような進学コース。あとは、オリンピック、パラリンピックの関係で言うと、障害をもっている人のアスリート養成というのは、意外と高校生時代はほとんどしていません。文部省や日本オリンピック委員会の方でも非常に力を入れています。東北には全くそういう高校はありませんから、オリンピック、パラリンピック選手の養成コースを作って行きたいと思っています。もう一つの学科は、これからのグローバル社会や国際化に備えた、グローバルコースを考えております。そのグローバルコースの中には、例えばスポーツを得意とする分野を入れるのも結構じゃないかと、一応3学級位で1学年120人、3学年で360人位の全寮制の高等学校を作っていきたいと思っています。おそらく、これは全国的にも人口減少社会の中では厳しい生徒集めにはなりますが、やはりチャレンジしていかないとどうにもなりません。

現在タイケン学園の方できてくれるという流れがありますので、そこにこちらとしても、具体的に支援体制を整えたいと考えております。例えば、使っていない時の鷹来の森運動公園を貸したり、いろいろな施設を多少は優遇して貸したりするようなことは出てくると思います。ただし、一方でそういう学校が来ることによって地域の行事、例えば未来中学校での体育祭などでは、高校の生徒が行って審判や運営の仕方を含めて応援してもらおうような地域と一体となるような進め方も出来ると思っています。ぜひ私とすれば、私立高校の誘致を完成させたいと思っていますので、鳴瀬の方でするので、鹿野委員さんも応援よろしく申し上げます。まずは、地元の熱意が大事だと思います。地元からも要望はあがってきていますので、それについては、議会でも前

向きに対応しているようですので、ぜひとも市全域で進めていければと思っております。以上です。その他何かありませんか。よろしいですか。

それでは、なければ以上をもちまして予定の議題すべて終了いたしました。

ご協力誠にありがとうございました。

総務課長（司会） それでは、閉会のご挨拶を工藤教育長にお願いいたします。

教育長 第1回の総合教育会議ということで、大変お忙しい中開催していただき感謝を申し上げます。教育委員会制度も変わりまして、この総合教育会議も入ってまいりまして、これまで市長さんと教育委員と一緒に話をする場はありませんでしたが、それが出来た事によって環境整備等に変なお力を頂きまして、感謝申し上げます。

教育内容については、まさに教育委員会の仕事でございますので、学力向上につきましても学校の先生方と協力して、また地域全体としても勉強することは大事なことで、真剣に勉強しましょうという意識を、授業日数の増加を機に盛り上げていきたいと思っておりますので、コミュニティスクールの仕組みなども活用しながらしっかりと取り組んで参ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げまして、閉会の挨拶にさせていただきます。今日はありがとうございました。

総務課長（司会） 以上で平成30年度第1回東松島市総合教育会議を終了いたします。

大変ご苦労さまでございました。ありがとうございました。

7 閉会 午後4時32分